

## 「大井田賞授賞式」

2月20日（金）に「第20回大井田賞授賞式」を挙げていたしました。大井田氏は、鎌倉時代の半ばころ、大井田郷に住んでいました。この賞は、戦乱の時代に命をかけて戦った大井田一族の意思を後世に伝える目的で、中条中学校で活躍した生徒に与えられるものです。

毎年、運動面や文芸面で活躍した生徒を表彰していただいています。今年度は6名が奨励賞をいただきました。1名は標語での受賞、5名は社会体育の野球での受賞です。

授賞式には、大井田同族会を代表して、副会長様をお迎えし、表彰及び激励のお言葉をいただきました。その副会長様のお言葉の一部を紹介します。

第20回大井田賞受賞おめでとうございます。この1年間、文化・芸術・スポーツ・地域活動に活躍された皆さんの努力を同族会一同うれしく思います。

大井田賞表彰式を執行する主旨に関しては、ご理解いただいているものと思いますが、私たち同族会は、単に先祖を顕彰するために結成したのではなく「先祖の活躍や活動を探求し、先祖が『未来次世代の繁栄』と『世の平和』を求めていたことを理解し、それを次の世代へ継承すること」を目的として結成いたしました。

昨年、私は2024年ノーベル平和賞を受賞された「日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）」の代表委員、田中熙巳（たなかてるみ）先生のご講演を聞く機会があり、30名程の集まりでしたので、意見交換をしていただくことができました。

ノーベル平和賞授賞式において、日本被団協を代表して演説をされた方ですので、丸顔でメガネのご老人のご記憶にあるかと存じます。

戦争をこの世から無くし、平和を希求する活動を継続していく過程において、戦争を直接体験された方が少なくなっていく現状では、ただひたすらに「平和の尊さを唱え続けていくほかに方法はない」と私が意見を申し上げましたところ、田中先生は「そのためにも教育が大事である」と言われました。

「平和の尊さを唱え続けていく」との言葉は、修験堂の荒行である「大峯千日回峰行」満行者※である、塩沼亮潤大阿闍梨がテレビの特集番組で語られていたのもので、私も共感していたことから、この機会に質問いたしました。

教育という単語を聞いて皆さまはどのような印象を持たれるでしょうか。大方の方は、上位から下位に向けて「教え諭すもの」「指導されるもの」という印象ではないでしょうか。しかし、一方で単純に「教育」という漢字2文字を「教え、育む」と読み替えただけでも、その印象はかなり変わります。

日本が明治に入り、西洋の文化や文明、そして思想を取り入れるにあたり、その外国語を日本語に翻訳した際に、*éduquer*、*educate* を漢字に置き換えたのが「教育」という2文字でした。しかし、本来その外国語が意味したものは、今日我々がとらえてる「勉強」「勉学」などとは全く違います。



自由・平等・博愛・平和を多くの犠牲のもとで勝ち取ったフランスの法律の文言にその回答があります。そこでは「教育とは、聡明で自由を得た市民を育てること。教育とは自分で決断ができる責任ある市民を育てること」であると明記されています。改めて田中先生の「教育が大事である」とのお言葉を思うと、我々同族会が皆さんと、先祖とこの太平記という歴史遺産を通じて語り継がれた「平和への希求」を共に考える機会を得られたことに感謝し、改めて我々の責任の重さを痛感するのであります。

私たち同族会をはじめ、先生方、教育行政の方、マスコミ、地域を代表されるご列席のご来賓、ここにおられる大人達は、「知って・分かたら・動かす」責任があります。

小さな動きその一つ一つが歴史を刻み、歴史を造っていきます。今、この一刻一刻が大事なのであり、誰かがやるだろうと傍観することは許されません。

そして我々同族会は誓います。「理想の実現のために生死を度外視し、最善を尽くす、『勇氣』と『忍耐』、『団結』と『和合』更には『志を貫いて変わらぬ清節の精神』である大井田スピリットを実践し、その究極の目標である「平和の実現」に向けて命を賭けて戦った先人の遺志を後世に伝えます。

生徒の皆さんと、校長先生をはじめ学校関係者の皆さま、また地域の皆様様の益々のご健康とご活躍を祈念し、第20回大井田賞授賞式の挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございます。

2026年(令和8年)2月20日  
全国大井田同族会 副会長

※奈良・吉野の金峯山寺には、大峯千日回峰行という修験道でも最も厳しい修行があります。行者は往復48kmの険しい山道を、9年間で1000日歩き続け、修行中はおにぎりとお水だけで過ごします。途中でやめることすら許されない過酷な行で、1300年の歴史の中で満行したのはわずか2人といわれるほどの荒行です。

大井田様からは、毎年生徒に向けて熱いメッセージを送っていただいています。私たちは地域のみならず、大井田同族会の皆さまの熱い支援を受けています。日々努力することがそれに報いることです。



卒業する3年生には、もうチャンスはありませんが、1, 2年生は是非大井田賞を目指してほしいと考えます。ここに大井田賞の授賞基準を簡単にお知らせします。



## 大井田賞 授賞基準

### (1) 大井田 大賞

運動部、文化部とも全国大会入賞、吹奏楽部 東日本大会金賞、その他、作文・標語・書道等 全国で最優秀賞レベル

### (2) 大井田 優秀賞

運動部、文化部とも北信越大会入賞、吹奏楽部 西関東大会金賞、その他、作文・標語・書道等 全国で優秀賞レベル

### (3) 大井田 奨励賞

運動部、文化部とも県大会入賞、吹奏楽部 県大会金賞、その他、作文・標語・書道等 県で優秀賞レベル

### (4) 大井田 特別賞

善行、社会寄与、ボランティア活動等、顕著な活躍が認められた者